

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	中国財務局長
【提出日】	平成20年11月13日
【四半期会計期間】	第57期第2四半期（自平成20年7月1日至平成20年9月30日）
【会社名】	寿スピリッツ株式会社
【英訳名】	Kotobuki Spirits Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 河越 誠剛
【本店の所在の場所】	鳥取県米子市旗ヶ崎2028番地
【電話番号】	0859(22)7456(代表)
【事務連絡者氏名】	経営企画担当責任者 松本 真司
【最寄りの連絡場所】	鳥取県米子市旗ヶ崎2028番地
【電話番号】	0859(22)7456(代表)
【事務連絡者氏名】	経営企画担当責任者 松本 真司
【縦覧に供する場所】	株式会社ジャスダック証券取引所 (東京都中央区日本橋茅場町1丁目4番9号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第57期 第2四半期連結 累計期間	第57期 第2四半期連結 会計期間	第56期
会計期間	自平成20年 4月1日 至平成20年 9月30日	自平成20年 7月1日 至平成20年 9月30日	自平成19年 4月1日 至平成20年 3月31日
売上高(千円)	8,215,571	4,270,891	17,203,034
経常利益(千円)	414,939	277,387	752,963
四半期(当期)純利益(千円)	228,684	154,660	183,586
純資産額(千円)	-	4,261,753	4,142,722
総資産額(千円)	-	11,522,084	11,422,490
1株当たり純資産額(円)	-	811.87	789.19
1株当たり四半期(当期)純利益 金額(円)	43.56	29.46	34.97
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)	-	-	-
自己資本比率(%)	-	37.0	36.3
営業活動による キャッシュ・フロー(千円)	398,161	-	921,100
投資活動による キャッシュ・フロー(千円)	287,086	-	774,064
財務活動による キャッシュ・フロー(千円)	121,859	-	50,387
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高(千円)	-	1,311,289	1,322,073
従業員数(人)	-	708	654

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第2四半期連結会計期間において、当社グループが営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

3【関係会社の状況】

当第2四半期連結会計期間において、重要な関係会社の異動はありません。

4【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成20年9月30日現在

従業員数(人)	708 (572)
---------	-----------

(注) 従業員数は就業人員であり、臨時従業員数は()内に当第2四半期連結会計期間の平均人員を外数で記載しております。

(2) 提出会社の状況

平成20年9月30日現在

従業員数(人)	8 (1)
---------	-------

(注) 従業員数は就業人員であり、臨時従業員数は()内に当第2四半期会計期間の平均人員を外数で記載しております。

第2【事業の状況】

1【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当第2四半期連結会計期間における生産実績を事業部門別に示すと、次のとおりであります。

事業部門等の名称	当第2四半期連結会計期間 (自平成20年7月1日 至平成20年9月30日)	前年同期比(%)
卸売事業部門(千円)	2,428,305	-
小売事業部門(千円)	422,088	-
合計(千円)	2,850,393	-

(注) 金額は販売価格で表示しており、消費税等は含まれておりません。

(2) 受注状況

当第2四半期連結会計期間における卸売事業部門の受注状況を示すと、次のとおりであります。

区分	受注高(千円)	前年同期比(%)	受注残高(千円)	前年同期比(%)
卸売事業部門	2,667,583	-	48,057	-

(注) 1. 金額は販売価格で表示しており、消費税等は含まれておりません。

2. 小売事業部門は見込生産を行っているため、該当事項はありません。

(3) 販売実績

当第2四半期連結会計期間における販売実績を事業部門別に示すと、次のとおりであります。

事業部門等の名称	当第2四半期連結会計期間 (自平成20年7月1日 至平成20年9月30日)	前年同期比(%)
卸売事業部門(千円)	2,725,352	-
小売事業部門(千円)	1,545,539	-
合計(千円)	4,270,891	-

(注) 1. 金額は販売価格で表示しており、消費税等は含まれておりません。

2. 総販売実績に対する販売割合が10%以上の相手先はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

3【財政状態及び経営成績の分析】

(1)業績の状況

当第2四半期連結会計期間における経営環境は、原油価格の高騰、製菓原料価格の更なる上昇懸念、食の安全に対する信頼を揺るがす事件が多発するなど、厳しい状況で推移いたしました。

このような状況のもと、当社グループは、「寿スピリッツ革命は高い価値創造革命だ！」を経営スローガンに掲げ、これまで以上に地域性及び専門店性を追求し、お客様に「選ばれる」魅力ある高付加価値商品とサービスの提供に努めてまいりました。

また、重点施策として高付加価値商品の開発、製品価格・規格の見直し、通信販売の強化などの諸施策による売上総利益率の改善、売場・販促仕器の改良、経費の削減、品質管理・内部統制の強化に努めてまいりました。

以上の結果、当第2四半期連結会計期間の売上高は4,270百万円、営業利益は280百万円、経常利益は277百万円、四半期純利益は154百万円となりました。

グループ会社別の業績は次のとおりであります。

寿製菓株式会社

寿製菓株式会社は、平成20年5月設置した「ラングドシャ」ラインが順調に稼働し、新製品の投入など売上高の拡大に努めました。また、山陰地区では、「出雲大社平成の大遷宮」効果などにより観光客の増加といった特需もあり好調に推移いたしました。

以上の結果、売上高は1,804百万円、営業利益は125百万円となりました。

株式会社但馬寿

株式会社但馬寿は、主力であります「黒豆茶」を中心に、「黒豆ほうじ茶」、「黒豆茶ゼリー」、「緑茶」など新たなアイテムを加え通信販売に注力いたしました。

以上の結果、売上高は319百万円、営業利益は38百万円となりました。

株式会社ケイシイシイ

株式会社ケイシイシイは、「ラングドシャ」製品の寿製菓株式会社への一部移管によるグループ向け売上の減少、競合激化などによる道内空港市場の落ち込みがあったものの、ダイレクトメールを活用した通信販売が堅調に推移いたしました。

新規出店では、平成20年7月小樽臨港線沿いに「ルタオプラス店」、同年9月、ルタオ本店の真向かいに「ルタオチーズケーキラボ」を立上げました。

生産面では、第2工場を改修し、「ドゥーブルフロマージュ」・「焼き菓子」の増産体制と通信販売作業スペースの拡充を図りました。

以上の結果、売上高は1,116百万円、営業利益は124百万円となりました。

株式会社つきじちとせ

株式会社つきじちとせは、売上高は前期に実施した不採算店舗の退店、東京大丸店の売場縮小の減少要因もあり、低調に推移いたしました。

以上の結果、売上高は210百万円、営業損失は14百万円となりました。

株式会社九十九島グループ

株式会社九十九島グループは、テーマパーク向け主力製品の原料変更に伴う販売休止（約2週間程度）とアイテム削減、前期の不採算店の退店、グループ向け商品の減少などにより売上高は低調に推移いたしました。

以上の結果、売上高は749百万円、営業利益は22百万円となりました。

販売子会社（11社）

販売子会社は、関西地区において平成20年3月に出店した「コンディトライ神戸新大阪店」が好調に推移、また宮崎地区が、マンゴー関連の新商品投入により好調に推移いたしました。

以上の結果、売上高は1,005百万円、営業利益は56百万円となりました。

(2) 財政状態の状況

資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末の資産総額は、前連結会計年度末に比べ99百万円増加し11,522百万円となりました。流動資産は4,683百万円となり、26百万円増加いたしました。主な要因は、受取手形及び売掛金の増加(86百万円)、その他流動資産の減少(63百万円)などによるものであります。固定資産は、6,838百万円となり、72百万円増加いたしました。主な要因は、設備投資に伴う有形固定資産の増加(103百万円)などによるものであります。

負債合計は、前連結会計年度末に比べ19百万円減少し7,260百万円となりました。流動負債は4,815百万円となり42百万円増加いたしました。主な要因は、支払手形及び買掛金の減少(176百万円)、設備関係支払手形の増加などに伴うその他流動負債の増加(108百万円)、1年以内返済予定長期借入金の増加(94百万円)などによるものであります。固定負債は2,444百万円となり62百万円減少いたしました。主な要因は、長期借入金の減少(81百万円)などによるものであります。

純資産合計は、前連結会計年度末に比べ119百万円増加し4,261百万円となりました。主な要因は、当四半期純利益(228百万円)の計上による増加、配当金の支払い(104百万円)による減少によるものであります。

この結果、自己資本比率は、前連結会計年度末の36.3%から37.0%となり、0.7ポイント増加いたしました。

キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末の現金及び現金同等物残高は、第1四半期連結会計期間末に比べ106百万円減少し1,311百万円となりました。

当第2四半期連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、92百万円となりました。

主な要因は、税金等調整前四半期純利益274百万円、減価償却費及びのれん償却費を127百万円の計上があった一方、売上債権の増加(360百万円)などの減少要因によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、205百万円となりました。

主な要因は、有形固定資産の取得による支出203百万円などによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果獲得した資金は、6百万円となりました。

主な要因は、長期借入による収入などによるものであります。

(3) 事業上及び財政上の対処すべき課題

当第2四半期連結会計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第2四半期連結会計期間における研究開発費の総額は、8,616千円であります。

なお、当第2四半期連結会計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3【設備の状況】

(1) 主要な設備の状況

当第2四半期連結会計期間において、主要な設備に重要な異動はありません。

(2) 設備の新設、除却等の計画

当第2四半期連結会計期間において、前連結会計年度末に計画した重要な設備の新設、除却等について、重要な変更はありません。また、新たに確定した重要な設備の新設、拡充、改修、除却、売却等の計画はありません。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	15,200,000
計	15,200,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (平成20年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成20年11月13日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	6,068,000	6,068,000	ジャスダック証券取引所	-
計	6,068,000	6,068,000	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成20年7月1日～ 平成20年9月30日	-	6,068,000	-	1,217,800	-	550,269

(5) 【大株主の状況】

平成20年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
河越誠剛	鳥取県米子市	1,885	31.07
寿スピリッツ従業員持株会	鳥取県米子市旗ヶ崎2028寿製菓(株)内	265	4.37
河越庄市	鳥取県米子市	169	2.78
株式会社山陰合同銀行	鳥根県松江市魚町10	150	2.47
株式会社鳥取銀行	鳥取県鳥取市永楽温泉町171	127	2.09
ゴールドマンサックスイン ターナショナル (常任代理人 ゴールドマン サックス証券株式会社)	1 3 3 F L E E T S T R E E T L O N D O N E C 4 A 2 B B , U . K (東京都港区六本木6-10-1)	90	1.48
商工組合中央金庫	東京都中央区八重洲2-10-17	60	0.98
福山通運株式会社	広島県福山市東深津町4-20-1	60	0.98
中村 光枝	京都府城陽市	59	0.98
松本 能利子	鳥取県境港市	56	0.92
計	-	2,923	48.17

(注) 1. 上記のほか、自己株式が818千株(13.49%)あります。

2. 商工組合中央金庫は、平成20年10月1日に株式会社商工組合中央金庫に移行されております。

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成20年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 818,600	-	-
完全議決権株式(その他)(注)	普通株式 5,249,200	52,492	-
単元未満株式	普通株式 200	-	1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	6,068,000	-	-
総株主の議決権	-	52,492	-

(注) 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が3,100株含まれております。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数31個が含まれております。

【自己株式等】

平成20年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
(自己保有株式) 寿スピリッツ株式会社	鳥取県米子市旗ヶ崎2028	818,600	-	818,600	13.49
計	-	818,600	-	818,600	13.49

2 【株価の推移】

【当該四半期累計期間における月別最高・最低株価】

月別	平成20年 4月	5月	6月	7月	8月	9月
最高(円)	861	805	800	810	848	820
最低(円)	779	788	791	785	789	680

(注) 最高・最低株価は、ジャスダック証券取引所におけるものであります。

3 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期報告書の提出日までにおいて、役員の異動はありません。

第5【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号、以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当第2四半期連結会計期間（平成20年7月1日から平成20年9月30日まで）及び当第2四半期連結累計期間（平成20年4月1日から平成20年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
 (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成20年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,863,889	1,874,973
受取手形及び売掛金	1,893,676	1,806,736
商品	43,710	42,421
製品	317,396	298,516
半製品	15,926	15,565
原材料	250,409	235,220
仕掛品	32,141	34,506
その他	290,549	353,735
貸倒引当金	23,809	4,426
流動資産合計	4,683,887	4,657,246
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	3,042,158	2,925,816
機械装置及び運搬具(純額)	355,168	343,887
工具、器具及び備品(純額)	230,712	229,525
土地	2,027,873	2,027,873
建設仮勘定	630	25,729
有形固定資産合計	5,656,541	5,552,830
無形固定資産	75,163	85,664
投資その他の資産		
その他	1,142,213	1,165,632
貸倒引当金	35,720	38,882
投資その他の資産合計	1,106,493	1,126,750
固定資産合計	6,838,197	6,765,244
資産合計	11,522,084	11,422,490
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	746,779	923,469
短期借入金	2,250,000	2,280,000
1年内返済予定の長期借入金	688,992	594,209
未払法人税等	183,874	158,015
賞与引当金	237,978	217,358
その他	708,371	600,164
流動負債合計	4,815,994	4,773,215
固定負債		
長期借入金	1,509,238	1,590,894
退職給付引当金	625,545	611,962
役員退職慰労引当金	275,821	270,421
その他	33,733	33,276
固定負債合計	2,444,337	2,506,553
負債合計	7,260,331	7,279,768

(単位：千円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成20年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,217,800	1,217,800
資本剰余金	2,556,077	2,556,077
利益剰余金	1,656,853	1,533,155
自己株式	1,186,411	1,186,411
株主資本合計	4,244,319	4,120,621
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	17,434	22,101
評価・換算差額等合計	17,434	22,101
純資産合計	4,261,753	4,142,722
負債純資産合計	11,522,084	11,422,490

(2) 【四半期連結損益計算書】
 【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)
売上高	8,215,571
売上原価	4,603,914
売上総利益	3,611,657
販売費及び一般管理費	3,187,438
営業利益	424,219
営業外収益	
受取利息	2,050
受取配当金	1,663
受取地代家賃	9,957
その他	14,804
営業外収益合計	28,474
営業外費用	
支払利息	32,705
その他	5,049
営業外費用合計	37,754
経常利益	414,939
特別利益	
受取補償金	10,782
特別利益合計	10,782
特別損失	
固定資産売却損	46
固定資産除却損	9,146
たな卸資産廃棄損	6,223
特別損失合計	15,415
税金等調整前四半期純利益	410,306
法人税、住民税及び事業税	181,622
四半期純利益	228,684

【第2四半期連結会計期間】

(単位：千円)

当第2四半期連結会計期間 (自平成20年7月1日 至平成20年9月30日)	
売上高	4,270,891
売上原価	2,393,754
売上総利益	1,877,137
販売費及び一般管理費	1,596,269
営業利益	280,868
営業外収益	
受取利息	1,508
受取配当金	514
受取地代家賃	4,986
その他	8,336
営業外収益合計	15,344
営業外費用	
支払利息	16,533
その他	2,292
営業外費用合計	18,825
経常利益	277,387
特別利益	
受取補償金	10,782
特別利益合計	10,782
特別損失	
固定資産除却損	7,712
たな卸資産廃棄損	6,223
特別損失合計	13,935
税金等調整前四半期純利益	274,234
法人税、住民税及び事業税	119,574
四半期純利益	154,660

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

当第2四半期連結累計期間
(自平成20年4月1日
至平成20年9月30日)

営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純利益	410,306
減価償却費	228,041
のれん償却額	20,000
貸倒引当金の増減額(は減少)	16,221
賞与引当金の増減額(は減少)	20,620
退職給付引当金の増減額(は減少)	13,583
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	5,400
受取利息及び受取配当金	3,713
支払利息	32,705
有形固定資産売却損益(は益)	46
有形固定資産除却損	9,146
売上債権の増減額(は増加)	86,940
たな卸資産の増減額(は増加)	40,191
仕入債務の増減額(は減少)	176,690
その他の特別損益(は益)	4,559
その他	130,609
小計	574,584
利息及び配当金の受取額	2,633
利息の支払額	34,075
その他の収入	10,782
法人税等の支払額	155,763
営業活動によるキャッシュ・フロー	398,161
投資活動によるキャッシュ・フロー	
定期預金の預入による支出	900
定期預金の払戻による収入	1,200
投資有価証券の取得による支出	603
有形固定資産の取得による支出	268,776
有形固定資産の売却による収入	47
無形固定資産の取得による支出	16,891
貸付けによる支出	140
貸付金の回収による収入	60
その他	1,083
投資活動によるキャッシュ・フロー	287,086
財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入金の純増減額(は減少)	30,000
長期借入れによる収入	400,000
長期借入金の返済による支出	386,873
配当金の支払額	104,986
財務活動によるキャッシュ・フロー	121,859
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	10,784
現金及び現金同等物の期首残高	1,322,073
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,311,289

【四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更】

	当第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)
会計処理基準に関する事項 の変更	<p>たな卸資産の評価基準及び評価方法 通常の販売目的で保有するたな卸資産に ついて、従来、主として移動平均法による原 価法によっておりましたが、第1四半期連 結会計期間より「棚卸資産の評価に関する 会計基準」(企業会計基準第9号平成18 年7月5日)が適用されたことに伴い、主 として移動平均法による原価法(貸借対照 表価額については収益性の低下に基づく簿 価切下げの方法)により算定しておりま す。この変更に伴う損益に与える影響はあ りません。</p>

【簡便な会計処理】

当第2四半期連結累計期間(自平成20年4月1日至平成20年9月30日)
 該当事項はありません。

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

	当第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)
税金費用の計算	<p>税金費用については、当第2四半期連結会 計期間を含む連結会計年度の税引前当期純 利益に対する税効果会計適用後の実効税率 を合理的に見積り、税引前四半期純利益に 当該見積実効税率を乗じて計算しておりま す。なお、法人税等調整額は、「法人税、住民 税及び事業税」に含めて表示しておりま す。</p>

【追加情報】

当第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)
<p>(有形固定資産の耐用年数の変更) 第1四半期連結会計期間より、連結子会社の機械及び装置 の耐用年数については、法人税法の改正を契機として見直 しを行い、改正後の法人税法に基づく耐用年数に変更して おります。 この変更に伴う損益に与える影響額は軽微であります。</p>

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

当第2四半期連結会計期間末 (平成20年9月30日)	前連結会計年度末 (平成20年3月31日)
有形固定資産の減価償却累計額 6,095,428千円	有形固定資産の減価償却累計額 5,912,971千円

(四半期連結損益計算書関係)

当第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)	
販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。	
従業員給料・賞与	924,237千円
販売促進費	572,824千円
貸倒引当金繰入額	20,886
賞与引当金繰入額	100,679
退職給付引当金繰入額	19,562
役員退職慰労引当金繰入額	5,400

当第2四半期連結会計期間 (自平成20年7月1日 至平成20年9月30日)	
販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。	
従業員給料・賞与	475,947千円
販売促進費	284,587千円
貸倒引当金繰入額	19,436
賞与引当金繰入額	34,153
退職給付引当金繰入額	6,953
役員退職慰労引当金繰入額	2,700

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第2四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年9月30日)	
現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成20年9月30日現在)	
現金及び預金勘定	1,863,889千円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金等	552,600
現金及び現金同等物	1,311,289

(株主資本等関係)

当第2四半期連結会計期間末(平成20年9月30日)及び当第2四半期連結累計期間(自平成20年4月1日至平成20年9月30日)

1. 発行済株式の種類及び総数
普通株式 6,068,000株
2. 自己株式の種類及び株式数
普通株式 818,680株
3. 新株予約権等に関する事項
該当事項はありません。
4. 配当に関する事項
配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成20年6月26日 定時株主総会	普通株式	104,986	20.00	平成20年3月31日	平成20年6月27日	利益剰余金

(セグメント情報)

【事業の種類別セグメント情報】

当第2四半期連結会計期間(自平成20年7月1日至平成20年9月30日)及び当第2四半期連結累計期間(自平成20年4月1日至平成20年9月30日)

当社の企業集団は、菓子製品の製造及び販売を主な事業としており、1セグメントの売上高、営業利益及び資産の金額がいずれも合計の90%超となっております。

また、当該セグメント以外に開示基準に該当するセグメントがありません。このため、事業の種類別セグメント情報の記載を省略しております。

【所在地別セグメント情報】

当社の企業集団は、当第2四半期連結会計期間及び当第2四半期連結累計期間において本邦以外の国または地域に所在する連結子会社及び重要な在外支店がありませんので、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

【海外売上高】

当第2四半期連結会計期間及び当第2四半期連結累計期間において海外売上高はありません。

(有価証券関係)

著しい変動がないため、記載しておりません。

(デリバティブ取引関係)

該当事項はありません。

(ストック・オプション等関係)

該当事項はありません。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(1 株当たり情報)

1 . 1 株当たり純資産額

当第 2 四半期連結会計期間末 (平成20年 9 月30日)	前連結会計年度末 (平成20年 3 月31日)
1 株当たり純資産額 811.87円	1 株当たり純資産額 789.19円

2 . 1 株当たり四半期純利益金額等

当第 2 四半期連結累計期間 (自平成20年 4 月 1 日 至平成20年 9 月30日)	当第 2 四半期連結会計期間 (自平成20年 7 月 1 日 至平成20年 9 月30日)
1 株当たり四半期純利益金額 43.56円 なお、潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。	1 株当たり四半期純利益金額 29.46円 なお、潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(注) 1 株当たり四半期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	当第 2 四半期連結累計期間 (自平成20年 4 月 1 日 至平成20年 9 月30日)	当第 2 四半期連結会計期間 (自平成20年 7 月 1 日 至平成20年 9 月30日)
1 株当たり四半期純利益金額		
四半期純利益 (千円)	228,684	154,660
普通株主に帰属しない金額 (千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益 (千円)	228,684	154,660
期中平均株式数 (株)	5,249,320	5,249,320

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

(リース取引関係)

所有権移転外ファイナンス・リース取引について通常の賃貸借取引に係る方法に準じて会計処理を行っておりますが、当四半期連結会計期間におけるリース取引残高は前連結会計年度に比べて著しい変動が認められないため、記載しておりません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成20年11月7日

寿スピリッツ株式会社
取締役会 御中

監査法人トーマツ

指定社員
業務執行社員 公認会計士 松本 保範 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 板谷 宏之 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている寿スピリッツ株式会社の平成20年4月1日から平成21年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成20年7月1日から平成20年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成20年4月1日から平成20年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、寿スピリッツ株式会社及び連結子会社の平成20年9月30日現在の財政状態、同日をもって終了する第2四半期連結会計期間及び第2四半期連結累計期間の経営成績並びに第2四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはX B R Lデータ自体は含まれていません。